

2021年11月吉日

三島市長 豊岡 武士 様

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島  
理事長 小松 幸子

### 三島駅南口東街区再開発事業について「市民との意見交換会」開催のお願い

秋の装いが進み、冬の足音も感じられようになりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、「グラウンドワーク三島 (GW 三島)」は、ご存知のように、市民・NPO・行政・企業とのパートナーシップにより、環境悪化が進行した「水の都・三島」の原風景・原自然の再生・復活に、29年間にわたり取り組んでまいりました。

その結果、ゴミが捨てられ汚れていた源兵衛川には、ホタルが飛び交い、水中花・三島梅花藻が咲き乱れる、誰もが感動する魅力的な水辺環境が蘇りました。2016年11月には「世界かんがい施設遺産」に、2018年1月には「世界水遺産」に登録され、三島の宝が世界の宝にブラッシュアップしました。夏には、昔のように、多くの子どもたちが川遊びに興ずる姿が見られ、年間720万人もの観光交流客が訪れる回遊性の高い「水の都・三島」が再生・復活しました。

この水と緑を活かした街づくりの成果・評価は、何事にも、多様な利害者が寄り添い、数多くの議論を蓄積していく「三島型・市民総意」の事業推進のスタイルがベースになっています。GW 三島の役割は、利害者の調整・仲介役であり、共存共栄のウインウインの関係構築を実現し、行政や企業の思惑や利害だけに偏らない、中立的で専門性の高い、市民総意の中庸的な計画案を提案・実現することにあります。

現在までに、民間企業のマンション建設で改変の危機が迫った旧三島測候所や三島梅花藻の里の水源地、養鱒所跡地の宅地開発など、民間企業が買収済みの土地を、三島市長と議会の理解を得て、市による買戻しを実現し、マンション建設や宅地開発の撤退・中止を成し遂げて来ました。これは、GW 三島が集めた1万人以上の署名活動の間接的な影響力が、市長と議会の意向を変えさせ、施策の変更・中止を導き、地域課題を解決してきたものです。

しかし、今回の三島駅南口東街区再開発事業については「源兵衛川親水公園  
化事業」や「街中がせせらぎ事業」で行われてきた、市民との徹底的な議論と  
情報公開の積み重ねによる「三島型・市民総意」の事業スタイルとは大きく異  
なり、三島市や準備組合、事業協力者が、市民との数多くの議論や意見交換会  
を開催せず、詳細な事業内容の情報公開が、まったく不十分なまま、一方的に、  
事業が進められてきているものと思われる。

具体的には、事業主体者である三島市から、多くの市民やGW三島などの環  
境まちづくり団体に対して、本事業の計画変更の推移や詳細な内容、変更理由  
などの説明は実施されておらず、事業主体者企業と準備組合のみとの間でのや  
り取りに限定されており、「情報閉鎖」の状態だと判断・認識しています。

また、何故、三島商工会議所の幹部やまちづくり委員会などのメンバーに対  
して、2回にわたり事業内容の説明を実施したのか、対応が偏っており、行政  
の中立性や公平性に反する行為だと思います。まさか、今後、これらの説明に  
より市民への説明は終わったとするのではないでしょうね。

現在、国内外においてSDGsの重要性が叫ばれる中、的確な情報公開と地域  
の信頼性構築に対して、市・県・国の補助金を受けて実施・成立する、公益性・  
透明性の高い事業であるはずなのに、事業者である三島市としての社会的責任  
を果たしておらず、市民無視・納税者軽視の姿勢だとの評価や不信、批判が市  
民に浸透・拡大しております。

本来、選挙を経て三島市民の付託を受けている市長といえ、市有地の所有者  
は三島市民、一人一人です。市民は大切な主権者なのに、その主権者が抱える  
不安や疑問に対して、誠心誠意、寄り添う真摯な姿勢がまったく見られず、市  
民目線から乖離した市政の傲慢な対応であり、市民を「下位」に見ていらっし  
やるのでしょうか。

特に、高層マンション・商業施設・駐車場などの建設に関わり、①「工事費  
の増加による過大な市民負担、②命の水である地下水の消滅、③伊豆半島ジオ  
パーク三島ジオサイトの貴重な溶岩層の破壊、④富士山の眺望阻害、⑤駅南へ  
の集客集中化による中心商店街の衰退、⑥慢性的な交通渋滞、⑦ビル風被害、  
⑧日照問題、⑨想定される南海トラフ地震等の巨大地震被害、⑩工事中の公害  
問題」など、コロナ後の経済動向を踏まえても、三島市への現実的な経済効果  
やメリットについては、問題点や不安ばかりが懸念され、事業者としての説明  
責任を十分に果たしておらず、その企業姿勢は認知することはできません。

川勝静岡県知事は、今までの知事定例記者会見において、何回も、今回の三島駅南口東街区再開発事業による高層マンションや商業施設の建設については「容認できず、反対である。三島市や事業者は、今後ともますます市民との十分な議論・意見交換を行い不安を解消すべきだ。地下水や水辺環境の保全をまずは優先すべきだ」との意向を明確に表明しています。

今後の本再開発事業の法律的な手続きにおいては、静岡県の理解が必要不可欠であり、川勝知事の理解なくして事業の円滑な推進は望めません。今までの川勝知事からの反対の意向表明は、このような大規模事業を急ぐ、豊岡市長に対しての強い「抑止」「反対」のメッセージだと考えています。

今後、GW 三島は、本再開発事業による地下水や水辺環境に与える悪影響を踏まえ、建築・地質・水循環・生態系の専門家からの問題点の指摘・提案を、まとめた「意見書」を、豊岡三島市長と川勝静岡県知事等に提出します。

さらに、三島市民の賛同の輪を拡大して、命の水の地下水とホテル舞う水辺環境を守るための全国的な市民運動を、報道機関や著名人との連携を含め、懸命に展開していきます。

今後、豊岡武士三島市長様におかれましては、三島駅南口東街区再開発事業について、事業協力者の企業と準備組合を含めて、「市民との意見交換会」をできるだけ数多く、開催していただくように、強く、お願い申し上げます。

つきましては、御社の窓口となる担当者を決めていただき、本会の担当者である渡辺か、美和に対して、電話かメールで、ご連絡をいただきますようお願い申し上げます。ご連絡をお待ちしております。

なお、今回のお願いにつきましては、多様な関係者を含め、県内や全国規模の報道機関に広く告知していきますので、ご承知おきください。

**【連絡・問い合わせ先】**

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島  
担当者:渡辺豊博（専務理事）・美和将弘（事務局）  
住所:〒411-0857 静岡県三島市芝本町 6-2  
電話:055-983-0136 FAX:055-983-0136  
E-mail:info@gwmishima.jp